

平成 27 年 度 自 己 評 価 表 (中 間 評 価)

鳥 取 県 立 米 子 白 鳳 高 等 学 校

中長期目標 (学校ビジョン)	1 学業に取り組むための「学ぶ意欲」を育てる。 2 「心の優しさ」を大切に、他者と共存する力を育てる。 3 「将来の夢」の実現に挑戦し、社会的自立を果たす姿勢を育てる。	今年度の 重点目標	1 基礎学力の向上 2 豊かな人間性の育成 3 進路指導の充実 4 地域・外部機関との連携
-------------------	--	--------------	--

年 度 当 初				評 価 結 果 (10)月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	評価	経過・達成状況
基礎学力の向上	意欲的な授業への取組	学習習慣を身につけ、意欲的に授業に参加する取組が必要である。	チャイム順守・授業マナーなどきちんとした態度でのぞみ、授業を大切にできる態度を育てることができる。	・単位修得に向けて、安易な欠席がないようにこまめに声をかける。	C	安易に授業を欠席する者が少なくないが、授業を大切にする意識が向上してきている生徒もいる。
				・欠席、遅刻、早退について、担任への報告を徹底させる。	B	まだ十分とは言えないが、中にはきちんと報告できる生徒もある。
	「わかりやすい授業」の実践	授業において、基礎学力を向上させる工夫が必要である。	生徒の状況に対応した教材開発等を進め、わかりやすい授業、魅力ある授業づくりをすることができる。	・生徒個々の履修および修得状況等の早期把握と職員間での共有を図る。	A	各課程会議を含め、教員間ですぐに情報交換できる体制ができています。
				・ユニバーサルデザインを意識した授業に取り組む。	B	各教科・科目において、様々な工夫がなされている。
豊かな人間性の育成	基本的な生活習慣の確立	挨拶、言葉づかいなど基本的な生活習慣を身に付ける取組が必要である。	すすんで挨拶をし、正しい言葉づかいをすることができる。	・学力向上のための講師派遣事業を活用し、授業改善に取り組む。	B	学力向上のための授業改善職員研修を実施した。
				・授業アンケートを利用し、授業改善に取り組む。	B	7月に授業・スクーリングアンケートを実施し、振り返り検討した。
	人間関係力の育成	コミュニケーションの促進により、人間関係を築いていく環境づくりが必要である。	クラスが、居心地の良い場所になるように、お互いを思いやる気持ちを育てることができる。	・挨拶・声かけを積極的に行う。 ・社会人として必要な言葉づかいの指導に心がける。	B	高校生マナーアップ、春・秋の交通安全に合わせ挨拶運動を実施しており、生徒会執行部もしっかり立ち番を行い、生徒は概ね良く挨拶をするようになってきている。継続的な指導は必要、今後も定期的に立番をする。
				・SHRや清掃の時間、休憩時間など積極的に声かけをして、相談しやすい信頼関係を築く。	B	担任や各分掌と連携をして、生徒の状況に合わせた支援を行っている。
				・SC・SSWer・白鳳サポーターなどと連携を図る。	B	SC, SSW, 白鳳サポーターとの連携で生徒を多面的に支えることができています。
				・人権教育LHRの充実を図る。	B	昨年度からの懸案であった職員現地学習と生徒対象の講演会を前期に実施。
				・定通教育充実事業の活用により、コミュニケーションの促進を図る。	B	様々な活動を通じて、生徒と教員間、生徒同士のコミュニケーションが促進されている。
				・仲間と協力して掃除に取り組み、美化活動の大切さを理解させる。	B	「テス」の取組を通じ、環境美化意識が身につく。日々SHRでも啓発していく。
環境意識の高揚	ゴミの分別や公共施設の利用マナーなどを身に付ける取組が、大切である。	地域の一員としての自覚を持ち、公共施設を利用する上での心構えを理解することができる。	・環境教育講演会、現地学習、環境保全活動などに取り組む。	B	現地学習会などを取り組み、意識は高くなってきている。テス、生徒会活動でも取り組んでいる。	
			・JR淀江駅の美化と駅利用のマナーアップに努める。	B	SHRなどで、日々の声掛けと、生徒会執行部のゴミ拾い活動が効果を上げている。比較的清潔である。	
			・通学路のポイ捨て撲滅に取り組む。	B	各クラスでLHRなどを利用し通学路のゴミ拾いを行い、啓発する。現状はゴミが減ってきている。	

年 度 当 初				評 価 結 果 (10)月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	評価	経過・達成状況
進路指導の充実	進路意識の高揚	経済・社会環境や雇用情勢の変化に対応するため、早期から進路に対する意識づけが必要である。	生徒が、進路に対する意識を持ち、個々の適性にあった進路選択をすることができる。	・産業社会と人間、LHR、総合的な学習の時間を活用して進路目標を持たせる。	B	自己理解を促し、職業・進学研究を進め、自らの進路について行動できるようにする。
				・上級学校・事業所見学などを実施する。	A	1年次の事業所見学をはじめ、オープンキャンパスへの呼びかけや各教科での取組を行っている。
				・進路関連書籍・DVDなどを充実する。	B	様々な進路研究に応じた教材が充実している。
				・進路指導部、保護者と連携をとりながら、進路保障の実現を図る。	B	教育相談部とも連携し、個々の特性に応じた指導を保護者とともにやっている。
				・キャリアアドバイザーを活用し、個人面談・指導等を通して、生徒個々の能力・適性を見極めた適切な進路指導を行う。	B	幅広い視点で、生徒の特性に合った職業指導により、キャリア教育の充実という点での効果も大きい。
進路理解の促進	社会人としての基本的マナーを習得し、進路目標を実現するための取組が必要である。	進路実現のための段階的な内容を理解し、社会人としての実践的なマナーの習得や職業理解を深めることができる。	・社会人講師を招くなど、キャリア教育充実事業の実践的な講座を実施する。	B	本校卒業生も含め様々な分野の方に指導いただくことで、生徒の進路に関する意識や関心を高めることができている。	
			・定着指導や就職先・進学先開拓を積極的に行い、進路選択の幅を広げ、外部関係機関との連携をはかり、進路相談をより充実させる。	B	就職先の開拓までには至らなかったが、卒業生の各進路先での状況把握や定着指導を行った。さらに特別支援関係の関係機関との連携を深め関係生徒の進路先の確保に努めている。	
地域・外部機関との連携	地域交流と地域資源の活用	体験学習や異世代との交流により、社会とのかかわりを持つことが大切である。	地域における異世代交流を通して、地域理解を深めることができる。	・学校独自事業を活用し、地域の保育園児や高齢者との交流を図る。	B	産業社会と人間や総合的な学習の時間、家庭科・農業科等の授業を中心に実施している。
			・定通教育充実事業を活用し、授業に地域の伝統芸能などを取り入れることにより、地域理解を深める。	B	産業社会と人間や総合的な学習の時間、家庭科・農業科等の授業を中心に実施している。	
	地域への発信	本校の取組を地域の方に理解され、協力していただくことが求められる。	本校の教育活動内容が、地域の方に理解されることができる。	・学校Webページと学習成果発表会などで、積極的に地域へ情報発信する。	B	ホームページのシステムを変更し、情報をより提示しやすくした。

評価基準 A：目標を達成している B：ほぼ計画どおり推進している C：取組がやや遅れている D：一層の取組が必要である E：目標・方策の見直しが必要である